

■第3回新居浜市長期総合計画審議会議事概要

業 務 名	新居浜市長期総合計画策定業務	
会 議 名	第3回新居浜市長期総合計画審議会（第1分科会：快適交流・経済活力）	
日 時	平成22年6月8日（火） 19：30～21：00	
場 所	市役所 3階委員会室	
参 加 者	委員（7名）	
事務局	部会（8名）、総合政策課（3名）、コンサルタント（1名）	
議 事 内 容	（1）基本計画（素案）について ・快適交流について（説明：建設部長）	
質 疑 等	会長	基本計画というのは、市民に向けて出すものなのか、それとも市の行政が持つておくものなのか。
	事務局	実務的に職員が使うものでもあるが、市民に対しても出していくものである。
	会長	地籍調査があがっているが、市民に対して示す意味、成果目標として掲げる意味はあるのか。ここでいう地籍調査とはどういうものなのかを教えて欲しい。
	事務局	地籍調査は全国的に行われているが、新居浜市は進捗率が5%と非常に低い状況である。市内の土地について調査をしながら一筆ごとに決めていく。それによって、道路を作るときに、迅速に用地買収ができるなどの利点がある。国土調査をやっておくと用地測量を行わなくてすむ。今、全国的に進められている調査である。
	委員	国や県の目標に比べてどうなのか。
	事務局	今、手元に資料がないが、少ないと思う。現在、角野船木線、上部東西線など進めていく事業の部分から優先的に地籍調査を行っている。本来は市全域を調査すればいいのだが、労力もかかるし、お金もかかるので少しずつ進めていきたい。
	委員	登記簿上の地籍はあるが、それでは精度が低いということなのか。土地の売買をするときは、測量しているのではないか。
	事務局	確かに、売買の場合は、それぞれ測量する。しかし、法務局の謄本では、登記簿上の数値と実際とで、ずれがある場合がある。更に、最近では測量の精度があがって座標を持たせることによって、経年変化しても、そこが復元できるようなやり方があり、その方法でやっていくことを考えている。
	会長	本来、個人がやるべきことなのではないか。それを公共が率先して行っていくということか。
事務局	行政としては、個人の資産の安全性を担保していく必要があ	

		る。これは公共として行うべき部分もある。国土調査の意義として、境界を掘り起こしていかないといけないことと、公共事業等を行う際にも個人資産の安全性を担保していくことが重要である。
	会長	良好な都市空間の目標として、「地籍調査進捗率」が大きな成果目標になっている。もっと違う目標があるのではないか。
	会長	8ページの下的成果目標について、「年間乗降客数」は理解できるが、「駅周辺にぎわいに関する市民満足度」が長期的に目標になるのか。どのように測るのか。
	事務局	駅周辺に関する満足度についてはアンケート調査を行った。その結果は、他の項目（満足度）と比較しても非常に低い。都市基盤に関する項目と比較すると、「駅周辺にぎわいに関する市民満足度」が5%に対し、幹線道路などの満足度は24～25%程度になっている。駅周辺のにぎわいについても、25%程度を目標として設定した。
	委員	意見がなければ、会としては、これが基本計画として決めていくということか。
	事務局	いただいた意見をもとに、次の作業に進めていくということになる。
議事内容	(1) 基本計画（素案）について ・経済活力について（説明：経済部長）	
質疑等	委員	商業振興について、33ページで3項目挙げられているが、具体的な案として市民会議で上がっているか。
	事務局	市民会議では意見が上がっており、その意見も踏まえて実施計画を作成している。地元の商店街の意見を聞くことも必要なので、定期的にそのような場を設けることも検討している。
	委員	38ページの取組方針については、良いことを書いているのでぜひ取り組んでいただきたい。放流事業は重要だが、放流事業だけに取り組むよりも、藻場づくりと磯やけにも取り組む必要がある。一緒に取り組んでもらえるのか。
	事務局	基本計画には主な取組内容を書いている。放流事業については引き続き推進したい。藻場の育成については、過去に市民の協力を得てやったことがある。どのように取り組むかも含めて検討していく。
	委員	磯やけの対応は、やってもらえたら、すぐに環境改善できる。
	委員	観光ルートの設定とあるが、別子山や東平にアクセスする道路状況が非常に良くない。そのようなルートを改善する考え

	をもたれているか。
事務局	河又東平線は問題を抱えているが、待避所をつくることか、危険箇所の防護を行うことしかできない。急峻なところであり、地形的にも、拡幅することは難しい。
事務局	土日だけは、交通整理員を設けて、迷惑をかけないようにしている。
委員	別ルートを考えられないのか。
委員	車がまっすぐ走れる道路を整備することができたら、どれくらいかかるか。
事務局	4 kmぐらいだから 10 分ぐらいで行くことができるようになるのではないか。
会長	ケーブルカーをひくなどのいろいろな発想も必要なのではないか。
委員	土日に交通整理しているが、交通整理をしないと動かなくなるのか。
事務局	交通整理がないと、途中で車がすれ違う時に動かなくなる場合がある。
委員	今は「東洋のマチュピチュ」といった観光地になっているが、15 年ぐらい前は単に廃墟になっているだけの印象を受けた。言葉 1 つで観光地になる。
会長	以前、ケーブルカーの計画はあったのか。
事務局	ロープウェイの計画があった。東平までをロープウェイで結ぶ考えはあったが、採算が合わないということで実現しなかった。
会長	今ブームが起きているのだから、ぜひその計画を温めてほしい。
会長	新居浜市といえば工業が主産業である。この計画だと林業、農業などと全部同じウェートになっている。どこにウェートをおくのか、どういう方向にもっていくのかというところが見えない。産業遺産を活かした観光に力を入れるのか、工業に力をいえるのか。どういうもので市の産業を引っ張っていくのかという議論があったほうがよかったのでは。
事務局	部会や市民会議においてもそのような議論があり、優先順位をつけていこうということになっている。その中で、経済活力については、8 項目に絞らせてもらった。更に今は空白になっているが、最終的には「重点」に行っていくことについても示していこうと思っている。

会長	産業構造、出荷額などの円グラフなどがあれば、新居浜市の産業がどうなのか、何が引っ張っているのかという全体像が分かりやすいが、現状では分かりづらい。
事務局	基本構想で製造品出荷額を示しており、新居浜市の経済を支えているのは圧倒的に工業である。そこから商業や観光も、派生している。農業、林業、水産業も当然、基本的に必要なものであり、工業、そこから派生した商業等が経済活力を支えている。
委員	主な取組内容に「駅南北一体化」と書いてあるが、一体化を進めるにあたって倉庫や貨物ヤードのことを書いておかないといけないのではないか。環境政策の上でも前向きに検討しているところを示してほしい。駅前の開発を進めていくには、準備段階でやっておかないといけないこともある。
事務局	連続立体事業については難しいことは分かっていたと思うが、区画整理、南北通路は推進していきたいと考えている。
委員	南北連絡通路をやってしまうと連続立体交差事業がますますできなくなる。また、南側を開発するのに、貨物ヤードの問題はある。
事務局	連続立体交差事業が、各県 1 事業だとして、松山駅周辺整備の動向をみると、新居浜での整備は 20 年～30 年以降になる。短期的には南北連絡通路の整備は必要だと思っている。我慢して待つと、何もできなくなる可能性がある。
会長	新居浜市は連続立体事業をあきらめるということか。30 年や 50 年後を見越して書いておく必要があるのではないか。あまり夢のない現実的な計画だけになってもおもしろくない。
事務局	夢を残しつつも、10 年間でできることを書いている。
会長	写真が揃っていない部分があるので、写真についても入れておくこと。
議事内容	(2) その他について (3) 事務局からの連絡 (4) 閉会